

2023年度国際版画美術館事業報告書【展覧会版】

展覧会名	楊洲周延—明治を描き尽くした浮世絵師			担当者名	宮崎黎		
会期	2023年10月7日(土)～12月10日(日)			開催日数	55日間		
協賛・後援・協力	芸術文化振興基金(助成)						
巡回館	なし						
展覧会概要	楊洲周延(ようしゅうちかのぶ・1838-1912)は、幕末から明治にかけて活躍した浮世絵師である。周延による作品は教科書や歴史資料集等に度々掲載されるが、彼の活動があまりに広範であったため、長らく全貌は知られていなかった。総数330件の作品を展示することで、彼の画業を総覧し、全体像を浮かび上がらせた。						
ねらい・対象	当館には周延作品が200点以上収蔵されており、従来より代表作として知られるシリーズも含まれる。これら作品の歴史上における位置付けを明確化すること、そして楊洲周延の存在を認知してもらうことを目的とした。動乱の時代である幕末から明治時代に関心を持つ高年齢層を対象とした。						
関連催事	催事名	開催日	タイトル	講師等	参加者数		
	講演会① (ゆうゆう版画美術館まつり関連イベント)	10月22日(日)	「楊洲周延—江戸と明治の架け橋—」	村瀬可奈 (東京国立博物館研究員・元国際版画美術館学芸)	63		
	講演会②	12月3日(日)	「周延と明治の浮世絵」	大久保純一 (国際版画美術館館長)	91		
	赤ちゃんのための鑑賞会	11月15日(水)	赤ちゃんのための鑑賞会	富田めぐみ (NPO法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会代表理事)	16		
	ギャラリートーク	10月28日(土) 11月25日(土)	担当学芸員によるギャラリートーク	担当学芸員	59		
	プロムナードコンサート	11月4日(土)	フルートとピアノで巡る明治の風景	河野彬(フルート)、高橋ドレミ(ピアノ)	165		
観覧料	一般	大・高生	中学生以下	無料日			
	900 円	450 円	無料	・初日:10/7・文化の日:11月3日 ・シルバーデー(満65歳以上無料):10/25、11/22			
観覧者数	有料計	無料計	総観覧者数	内、一般	内、大・高生	内、小・中生	内、その他
	5,553 人	3,230 人	8,783 人	8,369 人	231 人	183 人	0 人
	目標値	10,314 人					
主な収入	観覧料収入	図録販売収入	受託販売収入	その他の特定財源			
	4,065 千円	2,145 千円	520 千円	3,000 千円			
事業経費	<ul style="list-style-type: none"> ・講師謝礼 205 千円 ・事業協力謝礼 734 千円 ・設置・撤去委託料 3,317 千円 ・作品額装委託料 499 千円 ・広告・宣伝委託料 627 千円 ・ポスター等作成委託料 3,617 千円 ・ディスプレイ作成委託料 880 千円 ・イベント企画運営委託料 102 千円 			9,981 千円			
主な広報・取材等の講評	【テレビ】イツ・コミュニケーション、NHK日曜美術館アートシーン 【新聞】日本経済新聞、新潟日報 【雑誌】時空旅人2024年1月号 【ウェブ】アートコレクターズ、ぴあ、ウォーカープラス、美庵、美術展ナビ、スマートほか						

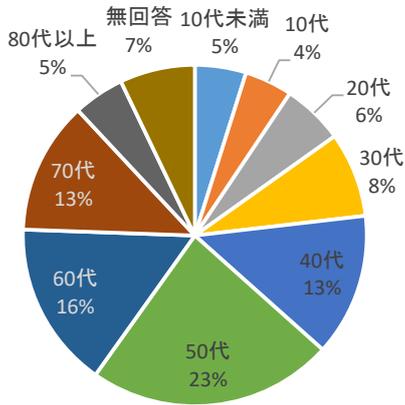
アンケート結果	回収数	回収率	市民率	リピーター率	満足度(とても良かったと良かったの率)		
	312 件	3.5 %	18 %	57 %	企画の内容	展示作品	展示の仕方等
	主なご意見	別紙のとおり。					
工夫と反省点、改善方法	予備調査	2022年11月頃、楊洲周延(1838-1912)を主題とする展覧会の開催が決定した。当初は当館収蔵品180点と個人蔵100点を中心に、周延の主要画題である文明開化と江戸懐古の女性像に因み「楊洲周延—開化と懐古の浮世絵師」と立案した。しかし、周延の画業があまりに広範であり、全貌が知られていなかったため、包括的に彼の活動を紹介する必要がある。周延の実像、加えて彼が活躍した明治時代の息吹に触れられる展覧会として、タイトルを「楊洲周延—明治を描き尽くした浮世絵師」とした。					
	作品選択	作品数330件、8章構成とした。周延の幅広い活動を伝えるため、版画作品のほか、肉筆画や新聞挿絵を展示した。第1章「高田藩士・橋本直義の時代—幕末～明治初年—」では、浮世絵を余技として習いつつ、激動の幕末時代を武士として生き抜いた周延の前半生を紹介した。第二回長州征伐に赴く高田藩を記録した「長州征伐行軍図」には、周延本人も従軍したため、絵師の自画像が描かれる。第2章「浮世絵師・楊洲周延として立つ—明治8～10年頃—」では、戊辰戦争に敗れた周延が東京に戻り、浮世絵師としての活動を本格化させた時期の作品を展示した。明治10年に勃発した西南戦争に取材した錦絵を紹介し、周延は当画題を多く手掛けることで、その名を市井に広めた。第3章「画風の模索—明治11～16年—」では、西南戦争錦絵制作を経て、多様な画題に取り組む周延の活動を紹介した。天皇皇后や宮中の女官達を描いた御所絵をはじめ、歌舞伎役者や時事を題材とした作品を展示した。第4章「美人画の絵師へ—明治17～19年—」では、当期に制作された『名譽色咲分』『雪月花』『東錦昼夜競』を展示した。いずれも大規模な美人画の揃物であり、周延の得意領域が確立した時期の作品に当たる。第5章「二大テーマの誕生：開化と懐古—明治20～23年—」では、周延の主要画題である文明開化と江戸回顧を表された作品を紹介した。《欧州管絃楽合奏之図》は資料集等に度々掲載される代表作であり、ピアノやヴァイオリンを演奏する女性達には日本の欧化風俗が端的に現れる。第6章「広がる活動—明治24～26年—」では、浮世絵版画の刊行数が減少するなか、周延が錦絵以外で取り組んだ活動を紹介した。当期の周延は新聞挿絵に注力したほか、門人の育成にも積極的であり、弟子との合作を多く残している。第7章「浮世絵をこえて—明治27～31—」では、周延の代表作として従来より名高い『千代田之大奥』『時代かがみ』『真美人』を展示した。これらの揃物は、周延が描き続けた開化と懐古の結実点に当たる。第8章「浮世絵最後のきらめき—明治30～40年代—」では、周延晩年の作を展示した。最晩年、数え年73歳で制作した《流鏑馬之図》は衰えことない周延の筆勢を伝える大作である。					
	図録	288頁(内カラー152頁、モノクロ136頁)の図録を作成し、展覧会出品作を全てカラー掲載した。資料編では作品解説のほか、周延研究者四名による論考を収載。さらには関連地図・関連年譜・落款および印章・主要参考文献・楊洲周延錦絵総目録を付載することにより、今後の周延研究における必読資料として、学術的価値の高い刊行物となった。当図録は好評を博し、展覧会最終日に完売した。					
	広報	ちらし7200枚、ポスター850枚を作成し、《園中のみち》をメインビジュアルに使用した。御殿女中の紅葉狩りを描いた当作には、周延らしい品の良い女性が登場し、展覧会開催時期と一致する題材であったため採用した。ちらし裏面には絵師の自画像と共に、簡略な紹介文を付すことにより、周延の存在を認知してもらえるよう努めた。展覧会ロゴは水色を基調とし、清涼感のあるデザインとした。					
	宣伝	駅貼り広告やSNS広告、オンライン・プレスリリースを実施しつつ、町田市内の全小中学校にチラシを送付した。SNS広告では、周延作品の鑑賞ポイントを紹介し、美術館で実作品を事細かに観察する楽しさを訴えた。また、日曜美術館アートシーンや日本経済新聞(土曜版)で取り上げられることで、展覧会がより広範に認知され、市内外からの来館者が飛躍的に増大した。					
	ディスプレイ	総出品数が330件(前期・後期それぞれ190件)であるため、展示空間が足りず、会場が煩雑な印象となる可能性が高かった。そのため、同一額内に関連作品を収め、一部作品は間隔を狭めて展示した。この試みにより、展示空間は整理され、作品間の比較検討が容易になったと考える。					
	イベント	村瀬可奈氏、大久保純一館長による記念講演会のほか、赤ちゃんのための鑑賞会、担当学芸員によるギャラリートーク、プロムナード・コンサートを開催した。赤ちゃんのための鑑賞会では、子連れでの来館を躊躇する保護者に対し、気軽に美術鑑賞可能な機会を提供できたと考える。					
	小中学生向けのガイドとキャプション	楊洲周延という浮世絵師の名を認知してもらうため、展覧会チラシには周延の後ろ姿の自画像を掲載し、周延という存在を簡潔に紹介するQ&Aを設け、中学生以上であれば理解できるように試みた。小学生向けのキャプションやパネルは設置しなかったが、市立高ヶ坂小学校4年生の見学時には学芸係で個々の作品解説を行い、児童たちは作品を前に熱心にメモを取っていた。					
その他特記事項	楊洲周延という浮世絵師の存在は一般に広く知られていなかった。しかし、NHK日曜美術館アートシーンや日本経済新聞(土曜版)で特集されることにより、周延そして本展覧会の存在が広く認知され、来館者数が向上した。主に50代以上の美術関心層に対して有効であったと思われる一方、若い世代の来館はあまり見られなかった。今後は、若年層に対して美術館側が如何に訴えるか、その工夫が求められるように思われる。						
館長からの指導点							
運営協議会での検証							

「楊洲周延」展 アンケート集計結果

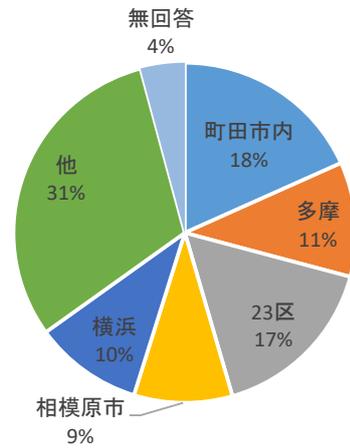
開催期間：2023年10月7日（土）～12月10日（日）

回答者数： 312 人（総入館者数：8783人 アンケート回収率： 3.5%）

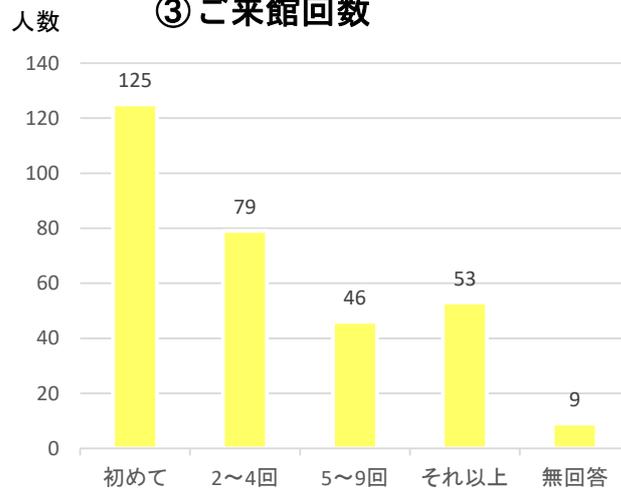
① 年齢層



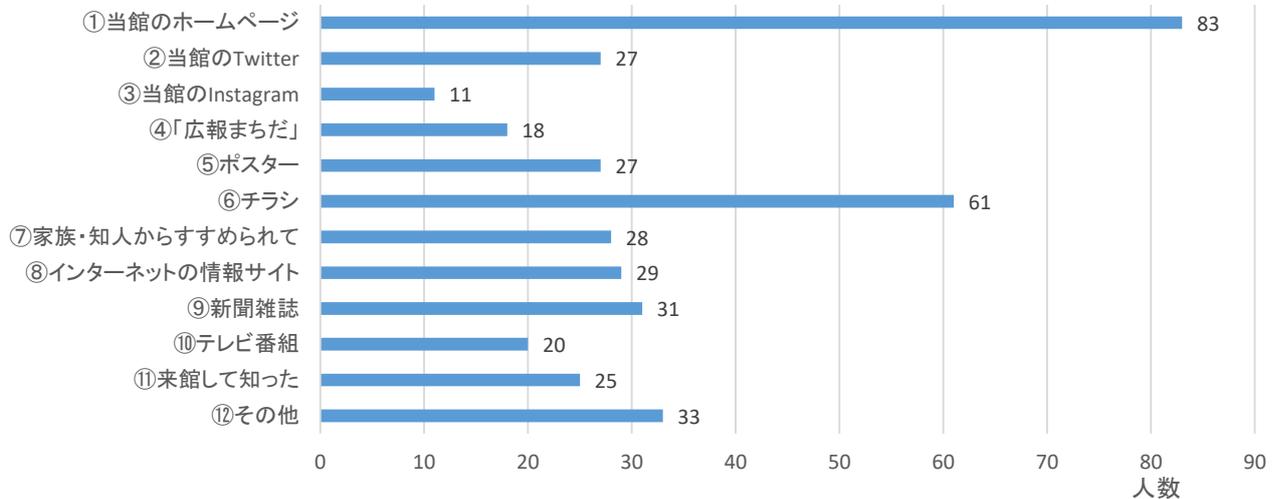
② お住まい



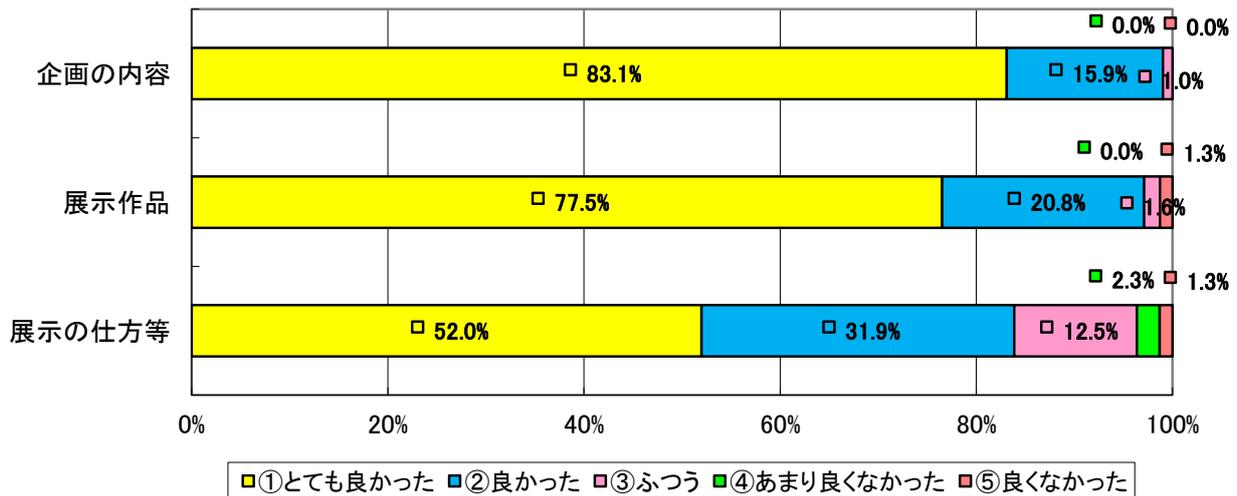
③ ご来館回数



展覧会情報の入手



⑥ 回答者の満足度



⑦ 主なご意見・感想

- ◆町田に来たのも初めてで、館の外の雰囲気も楽しんだ。
- ◆町田市に美術館があるとは知らず、熱量の高い展示に驚いた。
- ◆町田ならではの企画展ですばらしいと感じた。
- ◆時代・テーマごとの展示が分かりやすく良かった。
- ◆展示数が想像より多くて見ごたえあった。珍しい作品もみられてよかった。
- ◆展示内容もとても良く、会場内職員の接遇が丁寧で、ゆったりと作品を楽しめた。
- ◆とても静かで見やすい展示でよかった。
- ◆楊洲周延の作人をメインに観たのが初めてで、楽しく鑑賞できた。
- ◆絵画のよさと、歴史的な背景を同時に知れることができた。
- ◆明治時代の版画で用いられた細かい技法に感激した。
- ◆状態のよい作品を多く見られる機会はないので、ありがたい展示であった。
- ◆明治に入って世間のあれこれが変わる最中、様々な題材を描いたそのバックグラウンドまで興味深く見る事ができた。
- ◆図録も目一杯大きいサイズでありがたかった。
- ◆楊洲周延の画業の変遷がよくわかって非常に勉強になった。
- ◆新潟に行かなければ観ることが叶わないと思っていた肉筆画、そして手紙がみれて本当に嬉しかった。

以下は要望等の意見

- ◇作品の関係上仕方ないのだろうが、照明が暗く、ガラスに反射して見づらい所があった。
- ◇近代～現代の版画をもっと観たい。新しい作家を取り上げてほしい。
- ◇説明文をもう少し大きな書体にしてほしい。
- ◇会場内にシャッター音が響いて気になるため、全作品を撮影禁止にしてほしい。